



今日は避難訓練を実施しました。火元や避難ルート状況を想像しながら避難できましたか。

避難訓練を活かそう



避難訓練は本当に避難が必要となったときのために、避難の手順を無意識に、あるいは瞬時に論理的に判断できるようにするための確認の機会です。

避難訓練では煙を炊いて火事の時の視界がどのような状況にあるのかを確認することもあります。また、ドアを固定したり通路の収納箱を倒して通行できない状況をつくることもあります。実際の避難時にそのような状況に出くわすと慌てることがあります。特に集団での避難では先頭の人異常に気づいても後方からどンドンと避難する人が来て、身動きのとれない状況になることも想定されます。

なんとかなるさと先陣を切って動く人がいるから新しいことに気づけます。しかし、そこには命の危険を伴うこともあります。たとえば食べられると思って口にしたりした野草に毒があるような場合です。何もなければその野草は食べられることを知りますが、そうでなければ命を落とすこともあります。

石橋をたたいて渡るような慎重な人は、状況をしっかり見て安全を確認します。大きな発見や成功はないかもしれませんが、生き延びる可能性は高くなります。

世の中には先陣を切って進む人と慎重な人の両方が必要です。全校生徒が慎重になりすぎる必要はありませんが、日頃から誰かが慎重に考えて行動することで、災害が起きたときにそばにいる仲間を安全な方向へ導くことができるのです。

高校生は小中学校で避難訓練を行ってきたので避難する時のイメージはできていることと思います。これまで学んできた知識を活かすには、抜き打ちで避難訓練をすることが必要だと考えます。災害が起きる時に先生と一緒にいるとは限りません。休憩時間や部活動中、登下校中など自分たちで考えて適切な場所へ適切な方法で避難することを考える訓練が必要です。

5Sに「躰」というキーワードがあります。躰は考えなくても自然にできるようにすることです。

今日の避難訓練をふり返ってみて、もしもあのとき〇〇だったらどうしたらよかったのかと想像してみてください。時々、今地震が起きたらどうするのか、火災が発生したらどうするのか、不審者がいたらどうするのか、個人であるいは友達同士で考えてみてください。



校長 松川 明義



【行事予定】1日(水)：人権教育講演会(3年)

2日(木)：第2回学校運営協議会

週末の大会 バスケットボールウィンターカップ、マイコンカー県大会



米工 HP